

当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第77号

発行 2021年3月5日
発行者 浄土真宗本願寺派 長尾山天龍寺
副住職 天野英昭
739-0147 東広島市八本松西6-10-1
Tel・fax (082) 428-1360

春季彼岸会並びに永代経法座

日時 3月23日(火)

ご講師 堀 靖史師(志和東 光源寺住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃

第106回歎異抄輪読会

日時 3月18日(木) 14:00~15:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

★ 磯松天龍寺墓苑合同墓春彼岸法要

日時 3月20日(土) 15:00~16:00

※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。
但し、天龍寺墓苑合同墓での参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

ダーナ募金活動のお礼

昨年同様に、ダーナ募金活動にご協力・ご支援等を賜りました事、書面をお借りしまして厚く感謝申し上げます。ご寄付いただきました浄財は、仏教婦人会総連盟事務局を通じてユニセフ、あしなが育英会等また災害見舞金に、志和、八本松地区の福祉施設等に寄付をさせていただきますことをご報告させていただきます。

天龍寺仏教婦人会法座のご案内

日 時 4月11日(日) 13:00~15:00 頃

ご講師 伊川 大慶 師(三次市 西覚寺副住職)

※ 毎年、天龍寺仏教婦人会法座には、演奏会を行っておりましたが、未だコロナ禍が終息しないために演奏会は中止をさせていただきますことご理解をいただければありがたいと存じます。

本願力に遇いぬれば、むなしくすぐる人ぞなき Ⅲ

いくら科学技術・医療技術が発達しても、人間も自然界の一部であり、自然の道理には逆らうことができないと思うことであります。だれしもいつかは枯れて散っていかなくてはならない存在であるとの点も還暦を過ぎしみじみ思うことでもあります。

「業がなくなれば、業を探していく」と言われた方があります。コロナウイルスが、仮に落ち着いたら、おそらく私は、次の何かを探し、不平・不満を言いながら生きていくと思います。

お気を悪くされましたらご理解をいただければありがたいと存じますが、学校を早期退職させていただいて11年が過ぎ、悲しいご縁を通して、私なりにご指南をいただいたことがあります。それは、この境涯を生きていくことは、日々辛いこと・苦しいこと・悲しいこと等、様々なことに遇いながら生きていかなくてはなりません。

しかしながら、何が一番辛く・悲しいかと思えますことに『わが子に先立たれるご縁』ほど辛く・悲しいことはないのご指南をいただいたことであります。このことをあるお宅でお話をしますとそのご親族の方が『わしは、わが子と孫に先立たれた。』と言われたことがあります。それまで何度もご縁をいただきましたが、^{みじん}微塵もそのようなご縁に遇っておられるとは感じたことがありませんでした。人は、口に出さずとも心中に辛いこと・悲しいこと等を秘めながら生きていらっしやると思ったことであります。

10年近く前のことになりますが、東日本大震災があった1年くらい後の事か、はっきりとは覚えておりませんが、ある人が『それでも私は生きていく。』という題の文章をインターネット上で書いておられました。今検索してもその文章は出てきませんが、その文章を読んだときに、絶望感の底からの^{いのち}生命・魂の叫び、さらには今後生きていく覚悟のようなものを感じさせていただいたことであります。

偉そうなことは申せませんが、この厳しい現実の人生を生きていますと時に深い深い失望感・絶望感に遇うこともあると自分の拙い人生を振り返り思うことであります。残念ながら、娑婆の縁を去っていく瞬間まで、自分の意図しない・願わないご縁が続きますが、桜には桜の輝きがあり、バラにはバラの輝きがあり、道端に咲く小さな花には小さな花の輝きがあるように、皆さまにおかれましては、その時その時のご縁の中で、それぞれにその時に応じた自分なりの^{いのち}生命の輝きを娑婆の縁を去っていく瞬間まで放ちながら、この厳しい現実の人生を歩まれますことを念じ申し上げます。